

2024年度活動概要

言語教師認知研究会

言語教師認知研究会の研究テーマは、「日本における言語教師認知研究の理論と実践の確立と実態調査」である。近年では言語教師認知と不可分な関係にある感情・情動の探求も視野に入れ、教師の「こころ」の全体性を捉える試みを行っている。

本年度は、研究会主催のイベントを計2回実施した。9月21日（木）にZoomによるオンライン形式で定例研究会を開催した。武蔵野大学の江原美明氏をお迎えし、「Action Research から学んだこと（ Things I Learned from Reflective Teaching and Action Research ） 」という題目で、これまでの実践とそこから得られた気づきや学びについて約1時間ご講演いただいた。その後、講演内容に関するQ&A、さらに大学院生や現職教員の研究（アクション・リサーチを含む）に関する質疑応答を行い、実践と研究を往還する中での疑問点や課題について、参加者とともに共有・検討する機会となった。また2025年3月1日（土）にZoomによるオンライン形式で2回目研究会を開催した。獨協大学の浅岡千利世氏および文教大学の渡辺敦子氏を発表者にお迎えし、「教師教育者のアイデンティティ構築と成長:協働的振り返りとセルフスタディを通して」というテーマのもと、お二人の実践と研究についてご報告いただいた。発表および質疑応答に続いて、休憩を挟み、アクションリサーチに関する自由懇談会を実施した。教師教育や振り返りの実践、アクションリサーチに関心のある参加者が集い、活発な議論が行われた。次年度は、オンライン開催に加えて対面によるイベント実施を検討している。